

# カンボジア通信

第10号

2012年1月22日発行

〒464 - 8610 名古屋市千種区今池2-1-10 河合塾  
河合塾カンボジア支援グループ



## カンボジア教育支援運動 11年目の今 ～「河合塾だからできること」を探して～

	カンボジア	日本
児童労働(%)	45	-
HIVと共に生きる人(全年齢)の推定数/1000人 <small>※小児のデータは10代の全年齢者記録</small>	63	8.1
孤児(0-17歳)の数/1000人	630	73
初等教育就学率(%)	男:90 女:87	男:- 女:-
小学校に入学した生徒が最終学年まで残る率(%)	92	-
中等教育就学率(%)	男:36 女:32	男:98 女:98

※世界子供白書2011より

### 河合塾による教育支援活動

カンボジア教育支援活動は、河合塾の社会貢献活動基本規定に則り、「教育の機会均等に寄与する」活動を続けています。

具体的には、河合塾に縁のあるカンボジア-日本友好学園へ、毎年1月中旬から2月中旬にかけて生徒・職員からボールペンなどの文具を募集し、寄贈しています。また、校舎の移動等で廃棄の机・椅子が大量に発生した際には、カンボジアへ輸送しています。

今後は、こういったハード面でのサポートから、人材育成型のソフト面への支援内容への転換を目指しています。

### 日々、進化 =COLUMN=

今回、私はプライベートで、カンボジアを再び訪れてきました。ズバリ、今回の渡航テーマは「生活する」。現地で暮らす日本人の知人の家で寝泊りし、ビルのエントランスと同じ素材の床の上にマットレスを敷いて寝て、カンボジアの家庭料理を食し、移動手段もバイクの2人乗り。2人乗りも日本のようにフルフェイスのヘルメットを着用して中型以上のバイクに乗るのは違い、スーパーカブにノーヘルの2人乗り。絶対に日本ではやってはいけない違法行為です!!でも、カンボジアでは至って普通のこと。このバイク以外は首都プノンペンでのこと。これが、所変わって地方になると、木でできたベッドに蚊帳を張り、ござを敷く程度でその中に寝ます。家庭料理は大体変わりませんが、牛肉などは高級品のためなかなか食卓には並びません。そして、なんといっても、お風呂は井戸から汲み上げた真水を浴びるだけです。毎日がキャンプです。なかなかないですよ、こんな経験ができることは!また、お気づきでしょうか?この都市と地方の生活格差。

帰国後は、決まっています。日本での日々の生活がどれだけ恵まれているかと。国が違えば、文化や風習が違うのは当然ですが、私たちの日本での今の生活があるのは先人たちのおかげかと思うと、早くカンボジア人にとって生きやすい環境が、カンボジア全土に広がることを願ってやみません。  
福岡校 福島一代

### 未だ6割の子どもが高校進学できないカンボジア

ポル・ポト政権が指揮を執った1975年から1979年の間に、総人口の5分の1に当たる170~200万人が殺害されたカンボジア。その後も1991年に至るまで激しい内戦が繰り返され、20年前にようやくPKO活動などの援助を受け、国内の情勢は落ち着きつつあります。

ポル・ポト政権による知識人虐殺、また内戦による復興の遅れにより、カンボジアでは教育環境の整備が遅れています。児童労働、学校不足、教師不足、低賃金による副業で授業に来られない教師…など、教育の整備に関する問題は未だ山積みです。



### 「僕たちは世界を変えることができない」の著者、 葉田甲太さん(河合塾OB)にインタビューしました!

郵便局で何気なく手にしたパンフレットをみて、「150万円寄付すればカンボジアに小学校が建つ」ことを知った葉田さんは、そこから友人たちと協力してお金を集め、1年後には小学校を建ててしまった…向井理さんが主演した映画を見た人も多いと思います。ポルポト派による虐殺、HIV感染、地雷の被害者…カンボジアを取り巻く負の歴史を背負った人たちに正面から向きあってみると、意外にもみんな笑顔。「みんな幸せそうだから、本当に小学校いるのかな?」って不安にもなったそうです。思考や共感には及んでも、実際、行動に移すのって難しい。でも「楽しいからやっているんです」「僕たちがもらったものを返したい」。そんな飾らない、ストレートな言葉に少しだけ背中を押してもらった気がします。  
(教育研究部・西川)

### ～2010-2011年活動履歴～

2010年5月	机・椅子の輸送	2011年1~2月	支援物資の収集・仕分け・輸送
2010年9月	友好学園 第1期卒業生の来日 (生徒交流会を東京・大阪で実施)	2011年10月	スタッフ2名がカンボジア訪問 (現地交流会、現地取材)
2010年10月	スタッフ2名がカンボジア訪問 (現地交流会の実施)	2012年1~2月	支援物資の収集・仕分け・輸送(予定)

## ■タイ大洪水 カンボジアも洪水被害は甚大

今年タイの洪水のニュースをよく目にされたと思います。タイには多くの日本企業が工場を持っており、その被害は生産ラインがストップするなどし、日本の経済にも影響を及ぼしていることから、特に関心を寄せているという背景があります。一方、カンボジアにも洪水の被害が及んでいることはほとんどの方がご存じないことでしょう。カンボジアにはそう多くの企業などは入っていません。その国土は、その面積のほとんどが田畑や森などの自然です。そして、国土のほぼ真ん中を大きな湖とそこから南へと流れる大きな川、メコン川があるのですが、いつも雨季にはその水が溢れ出し、家を高床式にしないといけない地域ではあります。ですが、その通常の水量以上の水が、そこには流れていました。何の整備も行き届いていない地域は、いつも以上に水浸しになっており、地方に行けば行くほど田畑は巨大な湖と化していました。特に、カンボジア—日本友好学園があるプレイベン州は州の8割が水に浸かり、生徒たちは家に帰るのに船を乗り継ぐ必要があったり、そもそも登校することができなくなったりしているそうです。また、近隣の小学校は校舎が浸水し、新学期の開校(10月が1年のスタート)を迎えられていない状況でした。聞くと、教科書や机、椅子も浸水しているため、水が引いてもすぐに授業はできないだろうということでした。

そのような中で、なんとか新年度を迎えられた友好学園の生徒たちはいつものように明るい笑顔で、私たちを迎えてくれました。そして、先生方も同様に、支援する側受ける側という立場ではなく、教育のあり方や可能性について熱心にお話くださり、ますます生徒や先生方を応援していきたいと思えました。



水害に遭った小学校



カンボジア—日本友好学園



陸上の海…そんな状況でした。隣国タイと共に洪水の影響を受けていました。日中はその光景に愕然としたものの、波の立たないその海は夕方には水鏡となり、真っ赤な夕日が本当に美しい。夜空には天の川。そんな、自然いっぱい場所。そしてそこにあるのは、一生懸命に生き、勉学に励む子どもたちの姿。彼らが本質的に豊かになるための手助けとして、何ができるのだろうか？本当の『支』援ってなんだろう？

中部本部教務部／松尾 阿弥

## ■カンボジアの今昔

カンボジアでは、急速に発展しているところや、いつまでたっても進展のないところが極端に存在しています。1991年にパリ平和条約の締結で殺戮の時代から開放されたカンボジアが待っていたのは、貧困でした。国全体がまんべんなく、貧困でした。そこから、国連の介入や諸先進国の支援を経て、国の建て直しを図り、ようやくアンコールワット遺跡が世界遺産登録されるなど、有名な観光地として認識され、何とか復興を果たしている状況です。

具体的な復興の兆候としては、例えば、インフラ整備や産業開発促進、人材開発促進などNGOや外資系企業の力が及ぶところについては、急速に発展していて、高層ビル建設もいたるところでその存在感を現していますし、走る車は高級車も多く、また高収入を得るための職業もあります。一方急速な発展に取り残されている地方では、これまで通り農業やタクシードライバー、都市部への出稼ぎなどで収入を得るほかなく、貧富の差が大きくなってきているという問題が出てきました。一見、国全体が豊になっているような印象を得ることもできますが、実は、この貧富の差の拡大は、子どもたちが平等に教育を受ける機会を持つことができない等の問題をはらんでいるということにもなるのです。

カンボジアでは、日本同様に義務教育を無償で受けることができます。しかし、地方ではすべての子どもたちがこの義務教育を受けることができている事実はありません。やむなく家族を助けるため働かなければならない子どもや、無償で受けられるはずの教育ですが、実は教科書などは自分で購入しなければならないという現実から、学校へ通わせることができない家庭があることが実情です。

私たちの支援では、このような国の抱える根本的な問題を解決することはできません。ですが、今取り組んでいる活動が、少しでも教育を必要とする子どもを抱える家庭への手助けになればと考えます。

### ■会計報告欄

#### <募金収入>

2009年度 688,029 円  
2010年度 656,798 円  
2011年度(12月分まで) 193,823 円

#### <支出>

2010年9月 学生招聘(渡航費、滞在費など) 246,860 円

2011年3月 教育支援物資収集・輸送 480,559 円

### ■『すべての子に学ぶチャンスを』

#### ～カンボジアの子どもたちへの教育支援～

貧しくてノートなどの筆記用具もなく、学校で授業を受ける子どもたちがカンボジアにはたくさんいます。ちょっと字を書いただけの使いかけのノートや、もう使わないえんぴつやボールペンはありませんか？捨てるのは“もったいない”けど自分は使わないと感じたモノを提供してください。その他の文房具も同時募集中です。

◆収集場所：全国の河合塾グループにて

◆収集期限：2012年2月15日(水)まで

※詳細はHPにてご確認ください。